

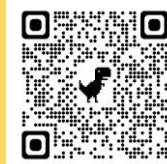
令和8年度病害虫発生予察情報 発生予報第3号(5月)

令和8年5月28日

発表：福島県病害虫防除所

【注意が必要な病害虫】

| | |
|----------|--|
| 普通作物 | ■ 麦類：赤かび病 -② |
| 果樹 | ■ ナシ：黒星病 -② |
| 野菜 花き | ■ キク：アザミウマ類（令和8年5月26日付け防除情報参考）-① ■ トマト：トマト黄化葉巻病（TYLCV）-③ ■ トマト：トマトキバガ（令和8年3月13日付け防除情報参考）-③ |



病害虫防除所
HPは
←こちらから



病害虫に関する
防除対策の
ページは
←こちらから

※ 上記の表に記載された病害虫は、下記の①～③に該当します。

注) ①現状において、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫

②「1 主な病害虫の発生予報」のうち、予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で特に懸念される病害虫

③「1 主な病害虫の発生予報」以外で調査の結果、今後、県全域的に発生が多く問題になると判断した病害虫

1 主な病害虫の発生予報

(1) 普通作物

| 作物名 | 病害虫名 | 地方 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 | 防除上注意すべき事項 |
|-----|----------------|-----|----------|-----|---|---|
| 水 稲 | いもち病 (葉いもち) | 全 域 | 平年並 | 平年並 | 天候予報(仙台管区气象台5月21日発表1か月予報)によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されている(±)。 | 補植用置苗は本病の伝染源となるため、補植を終えたら速やかに処分する。 窒素肥料の多用をさける。 |
| | イネドロ オイムシ | 全 域 | やや 早い | 平年並 | 天候予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、このことを踏まえた、有効積算温度によるシミュレーションの結果、幼虫のふ化盛期はやや早いと予想される。 天気予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されている(±)。 | 発生が目立つ場合は、薬剤による防除を行う(要防除水準:3~4 齢幼虫が1株当たり10頭以上寄生)。 移植が遅い場合は被害が大きくなりやすいので注意する。 |
| | イネミズ ゾウムシ | 全 域 | やや 早い | 平年並 | 天候予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、このことを踏まえた、有効積算温度によるシミュレーションの結果、水田侵入盛期はやや早いと予想される。 育苗箱施用薬剤の普及により、被害は抑えられている(±)。 | 成虫の寄生が100株当たり40頭以上確認される場合や、水田内のほぼ全葉に食害がみられる場合は水面施用剤を散布する。 |

| 作物名 | 病害虫名 | 地方 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 | 防除上注意すべき事項 |
|-----|------------|-----|------|-----|--|--|
| 水 稲 | イネヒメハモグリバエ | 全 域 | — | やや少 | 天気予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている（－）。 | 深水管理や直播栽培では被害が発生しやすいので湛水管理に注意する。 |
| | イナゴ類 | 全 域 | — | やや少 | 前年度の平均すくい取り数は平年より少なかった（－）。 | 例年発生が多いほ場では、6月中旬～7月上旬にふ化幼虫を対象として薬剤散布を行う。 |
| 麦 類 | 赤かび病 | 全 域 | やや早い | 平年並 | 農業総合センター麦類作柄解析試験の結果から、本年の出穂期はやや早いと予想される。 出穂期以降の感染好適条件の出現日は例年並だった（±）。 天候予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている（±）。 | 高温により登熟が早まっているため 刈取適期に注意 し、収穫後は 速やかに乾燥調製 に入る。 発病した場合は、 刈り分けを行い、被害粒の混入を防ぐ 。 |

注) 予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

（２）果樹

| 作物名 | 病害虫名 | 地方 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 | 防除上注意すべき事項 |
|-----|---------|-----|------|-----|-----------------------------------|---|
| リンゴ | 斑点落葉病 | 全 域 | — | 平年並 | 5月中下旬の新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった（±）。 | |
| | 褐斑病 | 全 域 | — | 平年並 | 5月中下旬の新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった（±） | 薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意する。 |
| | 腐らん病 | 全 域 | — | 平年並 | 5月中下旬の発生ほ場割合は平年並であった（±）。 | 枝腐らんは見つけしだい健全部5cm以上含めて切り取る。 胴腐らんは見つけしだい周囲の健全部まで5cm広く削り取り、殺菌塗布剤を塗布する。 |
| | キンモンホソガ | 全 域 | — | 平年並 | 5月中下旬の新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった（±）。 | |
| | アブラムシ類 | 全 域 | — | やや少 | 5月中下旬の新梢寄生の発生ほ場割合は平年よりやや少なかった（－）。 | |
| モモ | 灰星病 | 県 北 | — | 平年並 | 5月中下旬の花腐れの発生ほ場割合は平年並であった（±）。 | 本病による枝枯れは見つけしだいせん除し、園外に持ち出すなど適切に処分する。 |

| 作物名 | 病害虫名 | 地方 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 | 防除上注意すべき事項 |
|------|---------|----|------|-----|---|---|
| モモ | せん孔細菌病 | 県北 | — | やや少 | 5月中下旬の春型枝病斑の発生ほ場割合は平年よりやや低かった(—)。 | 発病部位のせん除を徹底する。 薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意する。 本病の発生が多い場合は、仕上げ摘果後、直ちに袋かけを実施する。 今後の気象経過によっては、発生が急増する可能性もあるので油断することなく対策を実施する。 |
| | モモハモグリガ | 県北 | — | やや少 | 5月中下旬の新梢葉被害の発生ほ場割合は平年よりやや低かった(—)。 | 第2世代の防除適期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、6月1半旬と予想されている(農業総合センター果樹研究所(福島市)、5月25日現在)。 |
| ナシ | 黒星病 | 全域 | — | やや多 | 5月中下旬の果そう基部病斑の発生ほ場割合は平年並であった(±)。果実での発生が広域的に確認された(+) | 果そう基部病斑や発病葉・果実は、徹底して除去し、園外に持ち出すなど適切に処分する。 「幸水」では果実の感受性が高まる時期(満開後50日頃～90日頃)を迎えるため、防除を徹底する。 薬剤散布は降雨前の実施を心掛け、散布間隔があきすぎないように注意する。 (令和8年5月29日付け令和8年度病害虫防除情報「ナシ黒星病」参照)。 |
| | アブラムシ類 | 全域 | — | やや少 | 5月中下旬の新梢葉寄生の発生ほ場割合は平年よりやや低かった(—)。 | |
| 果樹共通 | カメムシ類 | 全域 | — | 平年並 | 5月中下旬において、調査ほ場への飛来は平年並であった(±)。 | 越冬世代成虫による加害は幼果期から始まるため、特に山沿いの園地ではよく観察し、飛来を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 |

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(—)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

(3) 野菜、花き

| 作物名 | 病害虫名 | 地方 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 | 防除上注意すべき事項 |
|-------------|---------|----|------|-----|------------------------|---|
| 夏秋トマト(被覆栽培) | 灰色かび病 | 全域 | — | 平年並 | 発生ほ場割合は、平年並であった(±)。 | 発病葉は摘除し、防除を徹底する。 多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。 |
| | アブラムシ類 | 全域 | — | やや多 | 発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)。 | ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 |
| | コナジラミ類 | 全域 | — | 平年並 | 発生ほ場割合は、平年並であった(±)。 | ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 前作でタバココナジラミが確認されたほ場では、開口部に防虫ネットを展張する。 |
| | ハモグリバエ類 | 全域 | — | 平年並 | 発生ほ場割合は、平年並であった(±)。 | まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施する。 |
| キク(露地栽培) | 白さび病 | 全域 | — | やや少 | 発生ほ場割合はやや低かった(-)。 | 多湿条件が続くと発病しやすくなるので、予防散布に努める。 品種により発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底する。 |
| | アブラムシ類 | 全域 | — | やや多 | 発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)。 | ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 |
| | ハダニ類 | 全域 | — | 平年並 | 発生ほ場割合は、平年並であった(±)。 | 気温が高くなると、急激に発生量が増えるため、低密度時から防除を実施する。 抵抗性の発達が懸念されるため、防除薬剤の選択に注意する。 |
| | アザミウマ類 | 全域 | — | 多 | 発生ほ場割合は、平年より高かった(+)。 | ほ場をよく観察し、葉裏まで薬剤がかかるように防除を徹底する。 |
| | ハモグリバエ類 | 全域 | — | やや多 | 発生ほ場割合は、平年よりやや高かった(+)。 | 上位葉での発生に注意し、低密度時から防除を実施する。 |

| 作物名 | 病害虫名 | 地方 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 | 防除上注意すべき事項 |
|------|---------------|-----|------|-----|------------------------|--|
| リンドウ | 葉枯病 | 全 域 | — | やや多 | 発生ほ場割合は、平年よりやや高かった（+）。 | 多湿条件で発生が多くなるので、予防散布に努める。 |
| | ハダニ類 | 全 域 | — | 平年並 | 発生ほ場割合は、平年並であった（±）。 | 気温が高くなると、急激に発生量が増えるため、ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。 |
| | リンドウ ホソハマキ | 全 域 | - | 平年並 | 発生ほ場割合は、平年並であった（±）。 | 5月中下旬に成虫の発生が複数ほ場で確認されているため、ほ場をよく観察し、発生が多い場合は速やかに防除を実施する。 |

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

2 発生が懸念される病害虫

| | |
|--------------------|--|
| 水稲 | <p>■ ナガエツルノゲイトウ</p> <p>いわき市の一部で発生を確認しています。蔓延防止に努め、詳細は特殊報（令和6年8月8日福島県病害虫防除所）を参照ください。</p> |
| リンゴ ・モモ・ ナシ等 | <p>■ ナシヒメシンクイ</p> <p>ナシヒメシンクイ第1世代成虫の誘殺盛期は、気温が2℃高く推移した場合、6月3半旬頃と予測されます。そのため、第2世代幼虫に対する防除適期は6月4半旬頃と推定されています（農業総合センター果樹研究所（福島市）、5月25日現在）。</p> |
| リンゴ | <p>■ ナシマルカイガラムシ</p> <p>近年、ナシマルカイガラムシによる果実被害が問題となっています。ナシマルカイガラムシ第1世代のふ化開始は、気温が2℃高く推移した場合、5月6半旬頃と予測され、ふ化盛期は6月2半旬頃と推定されています（農業総合センター果樹研究所（福島市）、5月25日現在）。適期防除を徹底しましょう。</p> |
| ブドウ | <p>■ 晩腐病</p> <p>幼果期の防除終了後速やかにカサ掛けを行ってください。カサは雨もりを防ぐように丁寧に行いましょう。また袋かけ前の防除終了後は、速やかに袋掛けを行いましょう。</p> |
| トマト | <p>■ トマト黄化葉巻病（TYLCV）</p> <p>トマト黄化葉巻病が発生しているほ場においては、コナジラミ類の防除を徹底してください。また、発病が疑われる株については、速やかに抜き取り処理を行ってください。</p> <p>今後定植するほ場においては、苗からの持ち込みを防ぐため、育苗時からコナジラミ類の防除を徹底してください。購入苗の場合は、タバココナジラミの寄生の有無や葉の黄化などを確認し、健全な苗を選びましょう。</p> <p>病害虫防除所HPでも情報を掲載しているため、下記のURLも参考にしてください。</p> <p>【注意喚起～トマト黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策～】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf</p> <p>【トマト黄化葉巻病（TYLCV）対策 チラシ】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648953.pdf</p> <p>【トマト黄化葉巻病（TYLCV）対策 パンフレット】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648954.pdf</p> <p>■ トマトキバガ</p> <p>夏秋栽培のほ場において、果実等の被害が確認されています。ハウス内をよく見回り、本虫の発生や被害がないか十分に注意し、防除を徹底しましょう。（令和8年3月13日付け防除情報参考）</p> |